

専攻科調査書＜様式Ⅱ－２＞の記入・作成要領等

1 作成

- (1) 高等学校長又は特別支援学校長（以下、「学校長」という）は、志願者の調査書（本校が定める様式Ⅱ－２、A4判表裏両面1枚）を令和7年12月末日現在で作成する。
- (2) 調査書の各欄は、特に指示するもののほかは、高等学校及び特別支援学校高等部（以下、「高等学校等」）生徒指導要録に基づいて記入し、個人的主観にとらわれたり、特別の作為を加えたりすることのないように作成する。
- (3) 上段※印欄は、本校において必要な事項を記入するための欄とし、高等学校等では記入しない。

2 各欄の記入

- (1) 「氏名」、「現住所」、「学校名」に係る欄は、必要事項を記入するとともに、該当項目を○で囲むか、該当項目のみを直接記入する。

なお、編入学及び転入学の場合は、その学年を（ ）内に記入することとし、専門教育を主とする学科（以下「専門学科」という。）については、農業、水産、工業、商業、家庭、音楽等の別及び各科別を、例えば工業に関する学科の機械科の場合（工・機械）のように、（ ）内に記入する。

また、学年による教育課程の区分を設けない全日制、定時制及び通信制の課程においては、「学年」を「年度」と読み替える。（以下、同じ。）

- (2) 「各教科・科目等の学習の記録」の欄は、高等学校等在学中の全学年について、次のように記入する。

- ① 「教科・科目」の欄の教科名及び科目名は、指導要録に基づいて記入する。

「教科・科目」の欄については、各学科に共通する各教科・科目、主として専門学科において開設される各教科・科目の別が明確に区分されるよう記載する。

（記入例）

教科・科目		評 定			修 得 単 位 数 計
		第1学年	第2学年	第3学年	
教科	科 目				
	【各学科に共通する各教科・科目】				
国 語	国語総合	4			4
	古典B		3		4
	【主として専門学科において開設される各教科・科目】				
農 業	農業と環境	3			4
	食品流通		5		4

なお、留学については、「総合的な探究の時間」の欄の下の空欄に「留学」と記載する。

また、特別支援学校における自立活動又は高等学校等においてこの内容を参考として行われる特別の教育課程による障害に応じた特別の指導（いわゆる通級による指導）については、「総合的な探究の時間」の欄の下の空欄に「自立活動」と記載する。特別の教育課程による日本語指導については、「総合的な探究の時間」の欄の下の空欄に「日本語指導」と記載すること。

空欄不足の場合は、紙を貼り足してもよい。

- ② 「修得単位数の計」の欄は、修得を認定した学年ごとの単位数の計を記入する。この場合、卒業見込みの年で、最終学年の修得単位が未決定である場合には、当該学年における履修単位を修得したものとして計算する。

なお、留学に係る修得単位数については、学校長が修得を認定した単位数を記入する。

- ③ 「評定」の欄は、5、4、3、2、1の5段階で表示する。

また、留学に係る評定については、外国の高等学校の発行する成績や在籍、科目履修に関する証明書又はその写し（学校長が原本と相違ないことを証明したもの）を添付し、記入を要しない。

- ④ 卒業見込みの者で、最終学年の成績が未決定である場合は、当該学年における直近の成績を総合し、高等学校等として判定した成績を、最終学年の成績として記入する。
- (3) 「各教科の学習成績の状況」及び「全体の学習成績の状況」の欄については、次のように記入する。なお、留学に係る修得単位については、算入する必要がない。

- ① 各教科の学習成績の状況は、指導要録に基づき、教科ごとに各科目の評定の合計数を各教科の評定数で除した数値（小数点以下第2位を四捨五入）を記入する。

なお、例示以外の履修教科は、空欄を利用し記載する。また、空欄不足の場合は、紙を貼り足してもよい。
(計算例)

下記の成績の者の計算例は、次のとおりである。

$$(ア) \frac{\text{評定の合計数}}{\text{評定数}} = \frac{3+3+5}{3} = \frac{11}{3} = 3.66$$

- (イ) 小数点以下第2位を四捨五入すると、この者の理科の学習成績の状況は、「3.7」となる。

教科・科目		評 定			修 得 単 位 数 計
		第1学年	第2学年	第3学年	
理 科	物理基礎	3			2
	化学基礎		3		2
	生物基礎			5	2

- ② 全体の学習成績の状況は、指導要録に基づき、全ての教科・科目の評定の合計数を全ての評定数で除した数値（小数点以下第2位を四捨五入）を記入する。

(計算例)

下記の成績の者の計算例は、次のとおりである。

$$(ア) \frac{\text{全ての教科・科目の評定の合計数}}{\text{全ての評定数}} = \frac{(\text{国語}4+3) + (\text{地歴}5+4+4) + \dots + (\text{保体}4+3+4+4+5) + \dots + (\text{家庭}5)}{(\text{国語}2) + (\text{地歴}3) + \dots + (\text{保体}5) + \dots + (\text{家庭}1)} = \frac{120}{31} = 3.87$$

- (イ) 小数点以下第2位を四捨五入すると、この者の全体の学習成績の状況は、「3.9」となる。

教科・科目		評 定			修 得 単 位 数 計
		第1学年	第2学年	第3学年	
国 語	国語総合	4			4
	古典B		3		4
地 理 歴 史	世界史B	5			4
	日本史A		4		2
	地理A			4	2
保 体	体 育	4	3	4	8
	保 健	4	5		2
家 庭	家庭総合	5			4

(注) 保健体育のように、複数学年にわたって履修する科目については、各学年の評定数をそれぞれ1科目分として取り扱い計算する。

- (4) 「学習成績概評」及び「成績段階別人数」の欄は、次のように記入する。

① 「学習成績概評」の欄は、高等学校等における同一学年生徒全員（ただし、教育課程の異なる類型のある場合は類型別、専門学科の場合は科別）の3か年間（ただし、定時制及び通信制の課程で修業年限が3年を超えるものにあつては当該期間）における全体の学習成績の状況を次の区分に従って、A、B、C、D、Eの5段階に分け、その生徒の属する成績段階を記入する。

全体の学習成績の状況	学習成績概評
5. 0 ～ 4. 3	A
4. 2 ～ 3. 5	B
3. 4 ～ 2. 7	C
2. 6 ～ 1. 9	D
1. 8以下	E

② 「成績段階別人数」の欄は、各段階に属する人数とその合計を、「A〇〇人、B〇〇人、C〇〇人、D〇〇人、E〇〇人、合計〇〇人」のように記入する。

また、①により、類型別又は科別に記入した場合は、「合計」の欄に同一学年生徒の合計数を（ ）内に記入する。

- (5) 「総合的な探究の時間の記録」の欄には、指導要録と同様に、総合的な探究の時間に行ったにおける学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを端的に記入する。

なお、職業教育を主とする専門学科において「総合的な探究の時間」の全てを「課題研究」等の履修によって代替したことにより、「総合的な探究の時間」を履修していない生徒については、当該欄に斜線を引く。

また、「総合的な探究の時間」の全てを理数の「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修によって代替したことにより、「総合的な探究の時間」を履修していない生徒の場合も、当該欄に斜線を引く。

- (6) 「自立活動」欄は、第1学年、第2学年及び第3学年の令和7年12月末日までの学習の状況や成果等についての評価を簡潔な文章で記述する。ただし、自立活動の時間における指導を行っていない場合は記入する必要はなく、斜線を引く。

- (7) 「特別活動の記録」の欄には、指導要録と同様に、各学校が設定した観点を記入した上で、各活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる活動の状況にあると判断される場合には、○印を記入する。

- (8) 「指導上参考となる諸事項」の欄には、指導要録と同様に、要点を箇条書きするなど、その記載事項を必要最小限にとどめることとする。その際、生徒の特徴・特技や学校外の活動等については、原則として、学習指導等を進めていく上で必要な情報として精選して指導要録に記述された内容を基に記入する。

記入する内容が、無い場合はその旨明示する。その際、複数の学年を通じた記入が適当である場合は、学年ごとの記入を要しない。

なお、留学に該当する場合は、留学期間及び留学先の国名、学校名を記入する。また、休学については、学校長が許可した期間を記入する。

- (9) 「健康の状況」の欄の「身体障害者手帳」は「有」・「無」のどちらかを○で囲み、「有」の場合には、「等級」に「○種○級」を記入する。「聴力」は、4分法による平均聴力レベルを記入する。「疾病及び障害の状況等」は、就学及び受検上配慮すべき事項がある場合、その事項について具体的に記入する（必要に応じて副申書を添付する。）。

なお、記入すべき事項がない場合は、斜線を引く。

- (10) 「備考」の欄には、本校の専攻科に対する能力・適正等について、特に学校長が推薦できる生徒についてはその旨記入する。

- (11) 「出欠の記録」の欄は、指導要録該当欄の記載事項を転記するものとするが、欠席日数が学年ごとに合計5日以上ある者については、欠席の理由を備考欄に必ず記入する。記入すべき事項がない場合は、斜線とする。卒業見込みの者の最終学年の欄は、直近の学期末（ないしは、最終学年の成績を判定した時点）現在における出欠の状況を記入し、その旨を備考欄に明示する。

- (12) 記載責任者職氏名は、必ず記載し、押印する。

なお、記載内容を訂正した場合は、訂正箇所中学校長の印を押印するとともに、欄外に加除字数を表示する。また、紙を貼り足した場合も、中学校長の印で割印をとる。

- (13) 必履修教科・科目の未履修があった場合の調査書については、次のとおり取り扱うものとする。

なお、この取扱いは、(ア)「平成19年度大学入学者選抜における調査書の取扱い等について」（平成18

年11月2日付け18文科高第427号文部科学省高等教育局長・文部科学省生涯学習政策局長通知)より前に高等学校等を卒業した者及び中途退学をした者、及び(イ)「平成20年度大学入学者選抜における調査書の取扱い等について」(平成19年12月21日付け19高大振第66号文部科学省高等教育局大学振興課長・文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長通知)に該当する者に係るものとする。

- ① 未履修教科・科目の「評定」の欄については空白とする。(なお、「修得単位数の計」については、記載する。)
 - ② 「各教科の学習成績の状況」の欄及び「全体の学習成績の状況」の欄については、未履修教科・科目を除いて算定した数値を記入する。
 - ③ 「備考」の欄については、下記内容を記載する。
 - ア 未履修教科・科目名。
 - イ 未履修は、生徒の責に帰すべき事由によるものではないこと。
 - ウ 学習成績の状況は未履修科目を除いて算定していること。
- (14) その他、令和8年度高等部専攻科入学者選考における調査書については、次のとおり取り扱うものとする。
- ① 新型コロナウイルス感染症対策の影響による、大会や資格・検定試験等の中止・延期等により、調査書の特別活動及び指導上参考となる諸事項の欄が記載できない場合は、その理由を付した上で、当初参加を予定していた大会名や資格・検定試験名などを記載する(例:「〇〇〇に参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。」)。
 - ② 「令和3年度までに高等学校及び特別支援学校高等部に入学した生徒に係る指導要録の「出欠の記録」における記載事項の取扱いについて」(令和3年10月6日付け3文科初第1178号文部科学省初等中等教育局長通知)により、指導要録の「出欠の記録」の「備考」の欄にオンラインを活用した特例の授業の参加日数を記載することとされたことを踏まえ、調査書の「出欠の記録」の「備考」の欄も同様に、オンラインを活用した特例の授業の参加日数について記載する。

3 提出

- (1) 学校長は、志願者の調査書を入学願書等と併せてろう学校長に提出する。
- (2) 調査書は、本校のホームページから取得した様式(様式Ⅱ-2)に直接入力したもの、又はそれをコピーしたものに押印して提出する。